第２節　歴史を継承し、文化を創造するまち

２ 文化

～文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまち

＜A　基本計画の目標＞

市民がこれまで培ってきた文化の伝統に加えて、新たな文化を創造・発信するために、文化活動の振興を図ります。

＜B　目標指標：市民意識調査による市民の満足度＞

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	51.4 %	65.6 %	66.1 %	58.8 %	**65.6 %**	↗

＜C　目標達成に向けた24年度の実績と自己評価＞

※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績（前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント）

【経営企画部】	自己評価
【鎌倉芸術館の予防修繕】 前年度に引き続き、計画的に施設・設備等の維持修繕を実施しました。	○
【川喜多映画記念館の運営】 川喜多映画記念館は開館から3年目を迎え、来館者ニーズに応える事業を指定管理者が企画し好評を博しました。また、旧和辻邸については、外壁東側部分の修繕を予算の範囲で行いました。	○
【(仮称)鎌倉美術館の整備】 美術館の市内適地の情報収集を行うとともに、美術工芸作品収集選定委員会に意見を聞き、市への寄贈品等の円滑な収集事務を進めました。 また、美術品保管委託として、美術品保管実績のある民間倉庫において、市が保有する美術品の適正な保管を行いました。	○

前年度当初目標に対し、◎＝８０％以上○＝５０％以上△＝３０％以上×＝３０％未満

＜D　前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況＞

市民評価委員会などからの指摘		指摘等に対する改善策・対応など
【経営企画部】		
・世界遺産登録と相まって、鎌倉の文化をどのように守り、発展させるかといった継承に関する取組が必要である。	⇒	平成23年度から開始した文化推進プランの改訂において、世界遺産登録の理念と連動させるとともに、鎌倉の文化の継承、発展について具体的な事業を示すことで実行性を持たせることとします。
・文化に対する取組は、未だ見切り発車の感が否めない。		改訂するプランにおいて、さまざまな文化事業を体系的に位置づけるとともに、計画的に実施することとしています。

・ジャズ祭もよいが、他に鎌倉の文化を発信できるテーマはないものか。若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させることが望まれる。市民文化祭、ジャズ祭等のイベントは市民主導に移管していくべきである。	鎌倉らしい文化事業としては、鎌倉ゆかりの芸術家や文化人による児童生徒へのアウトリーチ事業として「ようこそ先達」を2年前から実施し、学校や市民から一定の評価を得ています。この他、若手芸術家の育成支援事業として、活動の場づくりなどについても計画しています。また、ジャズ祭については、23年度から、自立した実行委員会が企画運営を行い、市は会場使用料の負担にとどめています。これについても徐々に実行委員会の負担割合を拡大し、26年度以降、市は負担をしないこととしています。市民文化祭についても、市の事務量が軽減できるよう委託業務の範囲拡大を進めるとともに、実行委員会がより主体的な企画運営を行えるよう準備を進めています。
・新たな文化を創造・発信するために若い世代の力を動員できないか。若い世代の文化活動、観賞の場として、市川喜多映画記念館が開館されたことから、実際に若者の利用数、割合等がどの様であるかを分析して頂きたい。一方、川喜多映画記念館は閑散としており、適切な事業運営の検討が望まれる。本施設も含め、施設の独立採算制の検討が必要である。	川喜多夫妻の功績を讃えるとともに、映画文化の発信の場として設置された川喜多映画記念館では、日本映画や日本で映画文化の一翼を担った欧米映画についての企画展示や映画上映を行っています。アンケート調査を行うなど、記念館の利用者の実態を把握しながら、今後も市民、とりわけ若い世代が関心を寄せるような企画展示、映画上映について、指定管理者と協議しつつ進めていきます。 また、文化芸術の振興という目的を担保しつつ、独立採算についても念頭に置き、今後、持続可能な経営手法についても検討します。
・モニタリング制度の検証結果を公開する必要がある。	現在、指定管理者からの月次業務報告書提出等を受けて、市側で毎月モニタリングを実施しています。その結果については、今後、公開へ向けた検討を行います。
・（仮称）鎌倉美術館については、計画期間の見直しを行うべきである。	（仮称）鎌倉美術館の整備に関しては、今後、策定する公共施設再編計画を踏まえ、厳しい財政状況下における事業のあり方について、計画期間の見直しを含め検討します。
・印象的な広報で市民や観光客に各文化イベントを知らせて頂きたいと思う。	広報紙やホームページ、ソーシャルネットワークサービス等を通じて各施設の集客に向けた広報を実施していますが事業やイベントが印象的に伝わるよう、より効果的な手法について、指定管理者に指導していきます。

＜E　24年度未達成事業の課題・問題点など＞

【経営企画部】

【鎌倉芸術館の予防修繕】
　ホール設備等の大規模修繕には時間を要し、施設の長期間の休館が必要となります。今後、長期的展望に立った大規模修繕計画を作成する必要があります。
【川喜多映画記念館の運営】
　展示スペース等の制約がある中、更なる来館者増となる企画を検討する必要があります。また、鎌倉の映画文化発信の拠点として、様々な意見を聞きながら企画検討を進める必要があります。
【(仮称)鎌倉美術館の整備】
　用地選定が進まない中、具体的な施設内容の検討が進んでいません。

※未達成の理由<支障となった理由>
【鎌倉芸術館の予防修繕】
実施時期、実施方法等、大規模修繕の具体的な方策を確定することができませんでした。

＜F　今後の展開（取組方針）＞

【経営企画部】

【鎌倉芸術館の予防修繕】
　次期指定管理期間(平成28年度)以降に全館休館の想定を含め、長期的展望に立った大規模修繕計画の検討を行います。

【川喜多映画記念館の運営】
　モニタリングや連絡調整会議等により、適切な事業運営や施設管理が行われているかを確認します。また、施設設備等の適切な維持管理を行うとともに、映像資料と関連付けた展示企画の検討及び鎌倉の映画文化発信の拠点として、様々な意見を聞きながら企画検討を進めます。

【(仮称)鎌倉美術館の整備】
　今後、策定する公共施設再編計画を踏まえつつ、引き続き、用地の選定や事業規模に見合う施設内容についての検討を行います。

＜G　実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標＞

目標指標	目標指標の定義	当初値	H21	H22	H23	H24	H22年度目標値	H27年度目標値
市民文化祭への来場者数（＋）	毎年、鎌倉市が主催する市民文化祭の年間来場者数	27,627人	41,860人	45,038人	44,147人	**46,293人**	27,700人	27,900人
鎌倉芸術館・鏑木清方記念美術館・鎌倉文学館・鎌倉国宝館の利用度（＋）	4施設の年間利用者数の合計	686,854人	831,522人	684,180人	692,964人	**728,343人**	688,000人	688,000人
市民文化度（＋）	ここ1年間に、文化的イベントに参加したり、文化施設に行ったりしたことがある市民の割合	43.9%	37.8%	33.9%	37.1%	**36.8%**	45%	46%

＜H　事業コスト総額＞

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値　(A)	600,015千円	773,146千円	499,070千円	494,044千円	481,245千円			
	（国　・　県）	11,428千円	46,174千円	0千円	1,764千円	0千円			
	（負担金等）	5,991千円	5,662千円	5,544千円	960千円	6,211千円			
	（一般財源）	582,596千円	721,310千円	493,526千円	491,320千円	475,034千円			
	人員配置数	4.9人	5.9人	5.9人	6.9人	6.8人			
	人 件 費　(B)	46,906千円	54,343千円	51,043千円	59,400千円	54,579千円			
	総事業費(A+B)	646,921千円	827,489千円	550,113千円	553,444千円	535,824千円			
	対前年比		127.9%	66.5%	100.6%	96.8%			

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。

評価できるところ

・市民評価委員会からの指摘に対して真摯に受け止め、対応を図る姿勢がみられる。
・鎌倉出身の芸術家などによる「ようこそ先達」などは良い取組である。
・（仮称）鎌倉美術館への市民の期待は大きく、それが満足度に繋がった可能性もある。鎌倉美術館の整備に関して、計画期間の見直しを含めて検討している。
・モニタリングの公表を進めている。
・文化芸術の振興という目的を担保しつつ、持続可能な経営手法についても検討している。
・ジャズ祭について、自立した実行委員会が企画運営を行う等、徐々に市民運営に移行している。この様に、行政の働きかけから、市民自らがジャズ祭を運営するまで市民にジャズ（文化？）に対する興味を持たせたことは評価できる。

課題・提言

・世界遺産不登録勧告および取り下げはあったものの、連携を意識した文化推進プランは今後も求められると考える。世界遺産登録はなくとも、鎌倉の文化の継承、発掘に尽力すべきである。
・（仮称）鎌倉美術館の用地選定、計画等の検討が進んでおらず、今後の方針を立てていく必要がある。SNS等を有効活用した施設やコンテンツのアピールが必要である。なお、期待できる取組ではあるが、財政との兼ね合いも慎重に進める必要がある。
・市が保有している文化的拠点を今後どう運営していくのかが課題であり、稼働率や内容を検討する必要がある。
・川喜多映画記念館については、利用者からのアンケートではなく、利用していない方からの意見の方が重要である。
・取組（イベント）自体は良くても、実施日時によって参加（利用）できないことがあるので、対象としている世代によって、もう少し実施日時に工夫をする必要がある。若年層の参画をめざすのであれば、土日の取組をもう少し増やすべきである。
・モニタリング制度の検証結果を可及的速やかに公開すべきである。
・文化活動については市が中心に行っている。このため国・県の22年度事業費は0円であった。国・県とも共同し、事業費を獲得していく必要がある。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成24年度の取組は、<u>良好であった</u>。